

日時： 2016年4月5日（火） 13時30分～16時20分

場所： 国際文献社江戸川橋会議室

出席理事：新山陽子（会長）、前田恭伸（副会長）、青柳みどり、神田玲子、岸本充生、  
久保英也、恒見清孝、村山武彦（事務局長）

出席監事：片谷教孝、近本一彦

## 1. 理事会の成立

新山会長から、理事の過半数の出席を得て理事会が成立することが宣言された。

## 2. 前回議事録の確認

村山事務局長から紹介があり、内容を確認した。大会開催時の入会希望者の扱いを確認するとともに、退会予定者のうち役員から連絡可能な会員については、可能な範囲で状況を確認することとなった。

## 3. 委員会等活動の報告

### （1）編集委員会

恒見理事から書面にに基づき説明があり、査読システムの更新について現在検討を進めており、総会までを目途に稼働を目指しているとの報告があった。次に、査読状況について報告があり、大会のシンポジウムに関する報告は、大会開催前に予め原稿を依頼しておくことを次期編集委員会への申し送り事項とする。また、不採択になった論文が一定数出てきているため、不採択の理由について次回の理事会までに整理することとなった。

### （2）事業委員会

岸本理事より、書面にに基づき、リスクコミュニケーションに関するワークショップを含めたリスコミ TG の活動、および年次大会の検討状況について報告があった。このうち、年次大会の会場構成については、実行委員会に以下の点を検討していただくことを確認した。

- ・例年 60-70 程度の申し込みがある口頭発表が実施できる程度の会場の確保。
- ・ワークショップ、一般発表、ポスターの時間的な区分の考慮。
- ・英語によるワークショップや一般発表の募集の検討。

### （3）情報管理委員会

前田副会長より書面にに基づき報告があり、サーバ更新については更新手順や役割分担などについて今期中に方向を整理し事業計画としてまとめ、次期に引き継げるようにしておくことを確認にした。

### （4）リスクマネージャ委員会

神田理事より書面にに基づき報告があり、更新制度の改正がほぼ完了し、1期生の更新を進めていること、今後タスクフォースと連携しリスクマネージャの将来像を検討していくことが確認された。

## 4. 財務関係の執行状況

村山事務局長より報告があり、現在の執行状況や交通費の扱いについて確認した。

## 5. その他

### （1）村山事務局長より、次のメール審議による後援の承認状況について報告があった。

主催：日本保健物理学会

会合名：2016年度研究発表会 学会連携企画

「パネル討論：低線量放射線の健康リスクとその防護に関するコンセンサスの構築に向けて」

開催日：2016.6.30

(2016.2.22 打診、2016.3.14「共催」として承認)

(2) 前田副会長より東日本大震災特別委員会の活動報告があった。

#### 4. 審議事項

(1) 2016 年度事業計画の検討

各委員会から出された事業計画案を確認し、本理事会の議論も反映した形で案を修正することとなった。

(2) 次期監事候補者の検討

村山事務局長より片谷教孝監事と近本一彦監事を次期の監事候補として推薦する提案があり、承認された。

(3) 名誉会員の推戴

村山事務局長より、推戴細則の申し合わせ事項に該当する次の会員を推戴の候補とすることが提案され、審議の結果、承認された。

内山 巖雄 会員

森澤 眞輔 会員

(4) 2016 年度春季シンポジウムにおけるテーマの検討

岸本理事からこれまでの検討状況について報告があり審議した結果、気候変動、公衆衛生、防災、環境の分野で、金融を含めた管理アプローチを比較検討することをテーマとする案を検討することとなった。参加費については、講演者の参加に要する経費等を考慮して改めて検討することとなった。

(5) SRA International と本学会との関係

前田副会長より前回の理事会以降の状況について特に SRA から打診がないことが報告され、今後の対応を審議した結果、以下の内容について方針をまとめ定期総会で報告するとともに、年次大会で議論する場を検討することとなった。

- ・本学会と SRA-Japan を何らかの形で分離した場合の現実的な組織運営の方法。
  - ・理事会、総会の開催方法
  - ・SRA との関わり
  - ・本学会の非会員への配慮
- ・現行の海外渉外委員会を再編し、国際委員会（仮称）を設置。
  - ・SRA との関係だけでなく、JRR の編集、SRA Asia の活動などより広い範囲を対象。
  - ・特命担当補佐の甲斐・前会長、東海・元会長にも参加を依頼。

(6) SRA Asia の開催に向けた検討

2017 年に想定される次回大会を日本において開催することが要請されていることから、開催地を検討した結果、関西大学を中心としたグループが候補として挙げられ、新山会長から土田・元会長に打診していただくことを確認した。

(7) O.Renn 氏の来日に伴う会合

9 月初旬に開催が予定されている大阪と東京での会合の機会をみて、SRA との関係について議論する場を設定することを確認した。

(8) 後援の承認

次の後援名義申請が紹介され、審議の結果承認された。なお、2) の申請者である BAUMERT Nicolas 氏の会員資格について確認することとなった。

1) 主催：国際影響評価学会、会合名：第 36 回年次大会、開催日：2016. 5. 11-14

2) 主催：日仏会館フランス事務所、Crises alimentaires et sécurité des aliments : les leçons de la crise de Fukushima (食料危機と食品の安全性—福島原子力災害)、開催日：2016. 5. 12

(9) 次の会合

次回の理事会を、5/30 (月) 13:30 から開催することになった。

以上

議事録署名人 (署名) \_\_\_\_\_ 印

議事録署名人 (署名) \_\_\_\_\_ 印

議事録署名人 (署名) \_\_\_\_\_ 印